

H31. 2. 22 魅力あるまちをつくろう！部会議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成 31 年 2 月 22 日(木) 19:00～21:00 東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 魅力あるまちをつくろう！部会委員 6 名、他部会委員 1 名

議題 1 平成30年度東淀川区運営方針 年度内振り返り

議題 2 平成 31 年度東淀川区運営方針（案）・平成 31 年度東淀川区予算（案）

送付資料 1・2、当日配付資料 1 に基づき説明

議題 3 その他

送付資料 3・4、当日配付資料 3 に基づき、アンケート結果や今後のスケジュール等説明

議題 1・2 についてワークショップ（※ 下線部について次回の本会へ報告していく）

（地域活動協議会の活動について）

- 地域活動協議会の制度や活動について知らない人が多いので、情報発信を確実にし認知の向上に努めてほしい。例えば、地活協の活動取材したものを動画で流したり、転入者パックで情報発信したりして地域をフォローはどうか。
- 地活協の活動として何をしたらいいかわからないので、他地域の地活協の様子がわかるよう情報発信できるようなものがあればいい。

・ご指摘の通り情報発信が重要であり、「地域活動協議会って何」ということから、地活協の様々な活動実績を共有していくということまで、積極的に情報発信してまいりたい。

（地域別保健福祉計画について）

- 今年度、地域別保健福祉計画策定に向けて新たに意見交換をしたのは 1 地域にとどまっているが、アウトカムで 2020 年度末までに全 17 地域が議論していると設定するのはやや無謀ではないか。この 1 年でどういう取組をしてその結果 1 地域になったのかを把握し、具体のプロセスを踏まえて現実的な目標を設定した方が良いのではないかと。その 1 地域における保健福祉計画の実績について内容を分析の上、地活協同士の連携により成功事例を共有し他の地域が取り入れていけたらいい。

（区民まつりにについて）

- 今年度も雨天のため開催されなかったが、準備段階でたくさんの課題があり反省点がたくさんあった。雨でも開催できる場所がいいのでは。

（議員からの助言）

- ・ 小学校区単位という既存の枠にとらわれず地域活動協議会同士の横の連携を今以上に深め、より大きなパワーとなって、地域の魅力を高め、地域活動協議会が地域の活性化にさらに寄与していただきたい。

H31. 2. 21 教育・子育て部会議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成 31 年 2 月 21 日(木) 19:35～21:00 東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 教育・子育て部会委員 6 名、他部会委員 2 名、府議会議員 1 名

議題 1 平成30年度東淀川区運営方針 年度内振り返り

議題 2 平成 31 年度東淀川区運営方針(案)・平成 31 年度東淀川区予算(案)

送付資料 1・2、当日配付資料 1 に基づき説明

議題 3 その他

送付資料 3・4、当日配付資料 3 に基づき、アンケート結果や今後のスケジュール等説明

議題 1・2 についてワークショップ(※ 下線部について次回の本会へ報告していく)

(登校・登園サポート事業について)

○ 目標達成に至らず一旦見直しとあるが、大事な取組である。なるべく早く再開し継続することで、数年後の結果に表れてくる。子どもの登校に消極的な親にコミュニケーションをとってサポートしていくべきであり、場合によってはボランティアではなく、専門的な人からの支援も必要である。また、専門家やボランティアと一緒に勉強できる場があればよい。

○ 友達同士が不登校の子を誘う方が効果的では。

・ 来年度は予算がない中、区役所職員が緊急の対応をしながら様子を見ていく。現在、大阪市内の 7 区で「こどもサポートネット」を先行実施しており、その事業経過を踏まえて 2020 年度以降の施策に生かしていくので、その結果も加味しながら検討してまいりたい。

・ 息の長いスパンで効果をとらえていかないといけない。限られた財源で最大の効果を得られるよう地域と一緒に進めていきたい。

(中学生勉強会について)

○ とてもいい事業であるが、需要に反して枠が少ないのでは。また、学力向上に対応するなら小学校高学年くらいからサポートが求められるので対象を拡大できればよい。

(赤ちゃん訪問について)

○ 産後のお母さんにとって心強い施策であるが、1 回訪問したら終わりなので、その後につながるきっかけがあればよいのでは。

(議員からの助言)

・ 全国学力学習状況調査の結果、全国平均に比べて東淀川区の子どもは自尊感情が低いという非常にショッキングな結果が出ている。子どもの自尊感情の向上への取組が非常に重要であり、地域の力が必要である。

・ 子どもの安全・安心という観点から子どもの携帯について学校への持ち込みを可とする大阪府のガイドラインを作成した。ぜひご活用いただきたい。

H31. 2. 26 安全・安心部会議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成 31 年 2 月 26 日(木)19:00～21:00 東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 安全・安心部会委員 9 名、他部会委員 1 名

議題 1 平成30年度東淀川区運営方針 年度内振り返り

議題 2 平成 31 年度東淀川区運営方針(案)・平成 31 年度東淀川区予算(案)

送付資料 1・2、当日配付資料 1 に基づき説明

議題 3 その他

送付資料 3・4、当日配付資料 3 に基づき、アンケート結果や今後のスケジュール等説明

議題 1・2 についてワークショップ

(防災についての取組・アンケートについて)

- 今年度は具体的取組を実施して目標を達成できているが、課題も多く、取組を継続して実施することが重要である。
- 4-1-2 の指標に「災害時に取るべき行動が分かった」区民の割合とあるが、取るべき行動の分野によって、分かったという数値が減少したりする。
- アンケート結果を地域別・年齢別に分析し、地域へ情報を公開して対策を練ることが必要。

(備蓄について)

- 医薬品の備蓄は 1 か所だけでは区内にいきわたらないと思う。小規模の病院や企業を巻き込んでどうか。
- 自助の備蓄は大事であるが、限界がある。例えば、ミルクやおむつなどは、協定を締結している協力事業者や幼稚園・保育園で備蓄してもらおう等連携を進め、その内容を公開してほしい。
- 広報紙の 1 面等を使い、毎月、防災の取組(例えば備蓄のローリングストック法等)のテーマを決めて、具体的な内容を絞り込んで防災知識の啓発をしてはどうか。
- 在宅避難者など、避難所以外の避難者への物資の支給など、課題の整理が必要。

(出前講座について)

- 出前講座について来年度 34 回実施予定とあるが、小中学校数に比べるとまだ少ないのではないか。学校からの発信は効果的で、子どもが親に伝えることで親の意識も変わる。

(要配慮者について)

- 要配慮者に対する学習会を充実させたほうがいい。
- 地域における要配慮者の支援がいざという時に機能するように、区役所に関わってほしい。

(地域の避難訓練・勉強会について)

- 先日の地域の訓練で、従来の型にはまった訓練ではなく、まだまだ不十分な点も多いが現実味を帯びた実践的な訓練をして有益であった。
- 災害時に地域内ですぐに情報伝達できるような状況づくりを地域に対して促進し、情報伝達に関する訓練を各地域で強化してほしい。
- 地域の勉強会に毎回同じ人が参加しているので、告知方法に工夫が必要である。
- 他の地域と合同防災訓練を行う等、地域連携を深める取組を進めてほしい。

(青色防犯パトロール活動について)

- 地域青パトの巡回が不十分であるため、地域間で連携しながら乗る回数を増やし、防犯意識を高めていけばよい。

(重点犯罪の抑止について)

- 4-2-2のプロセス指標について子どもを狙った犯罪件数も大事であるが、一方で高齢者には限らない特殊詐欺も増えているので特殊詐欺件数も指標にしてはどうか。

(犯罪情報の広報について)

- 特に注意を要する犯罪が多発したときは、SNS等で注意喚起の情報発信を強化してほしい。
- 柔軟な情報伝達方法を検討してほしい。

(交通マナー向上について)

- 大人の自転車マナーが悪いので、学校、PTAなどいろんなところで勉強会をもっとするべきでは。

- ・ 31年度運営方針案の記載内容を更に具体的にご提案いただいたので、ご意見を整理して運営方針に反映してまいりたい。防犯について、子どもをねらった犯罪の抑止も特殊詐欺もどちらも継続して力を入れて取り組まなければいけない課題だと認識している。指標を検討する。

H31.2.14 健康・福祉部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成31年2月14日(木)19:00～21:00 東淀川区役所3階304会議室

出席者 健康・福祉部会委員4名、他部会委員1名、府議会議員1名

議題1 平成30年度東淀川区運営方針 年度内振り返り

議題2 平成31年度東淀川区運営方針(案)・平成31年度東淀川区予算(案)

送付資料1・2、当日配付資料1に基づき説明

議題3 その他

送付資料3・4、当日配付資料3に基づき、アンケート結果や今後のスケジュール等説明

議題1・2についてワークショップ(※下線部について次回の本会へ報告していく)

(複合課題世帯・生活困窮者の自立支援について)

- 支援を拒否する事例に対してどう対応していくか、取組が必要である。
- 運営方針3-1-1について、今年度の指標は意識の高い人へのアンケート結果であるので、要支援者対策の結果となっているか疑問。また、意識の高い人へのアンケートとして86%という結果はむしろ低く感じる。
- 要支援者本人がどれだけ自立できたか、が重要である。
- 支援が必要な人が声を上げたとき、上手く拾いつなげてくれる人が大事であり、そういったつなげる人の育成が必要である。

(要援護者の見守り活動等への支援について)

- 見守り活動に意欲がある人に情報が入ってこない。どうやって情報を伝えるか。隠れている要援護者を見つけて、行政につなげる仕組みや仕掛けが必要である。
- 民生委員への情報提供は有用であり、そこから地域に広がればよい。
 - ・地域の意見を聴きながら実情に応じた重層的な見守り活動の支援、仕掛けを検討していく。

(子どもの貧困について)

- 子どもの貧困について、区役所の積極的な取組が欲しい。物を与えるという施策もあるが、子ども自身が貧困の連鎖から抜け出すことが出来るシステム作りが重要である。
- 親が拒否すると支援が進まない、子ども自身の申請で支援ができるようになったらいい。行政に繋がる仕組みや仕掛けが必要である。
- 食育講座をこども食堂とタイアップしても面白い。
 - ・子どもの貧困について、運営方針2-2-1に記載している中学生勉強会事業では個別の学習支援を通じて子どもの自尊感情を高める取組を委託実施しているところである。

(健康づくりについて)

- 健康づくりに意識して取り組んでいる区民の割合(3-2のアウトカム指標)が低かったことを踏まえて、次年度以降の取組みとして、区民への意識啓発の具体的な方法・行動などを示してほしい。

(百歳体操の広がりについて)

- 百歳体操が世代間交流の場として地域でつながりができ、タイムリーな情報(例えばヒートショックや消費者被害)を共有できる場にもなるので、まちぐるみの取組の輪が広がればよい。
- 行政に繋がるような仕掛けづくりが必要である。
- 世代交代の時期を迎えているが、ネーミングの問題もあり、若い人が参加してくれない。30~40代も取り込めるような幅を広げるアイデアが必要である。一方で、若い世代はカーブスなどに積極的に健康づくりに取り組んでいるので、健康づくりという観点からは一定達成している。
- 参加者数が増えればよいが、その分サポーターが必要になり負担も増え、担い手をどう増やすかが課題である。

・子どもと高齢者のつながる場として、百歳体操を学校の講堂で実施する等を計画しており、地域で世代間のつながりができるよう取り組んでいく。

(議員からの助言)

- ・百歳体操について泉佐野市等独自の体操に取り組んでいる事例もあるので、他都市等の事例を取り入れてみてはどうか。
- ・子どもの貧困について、例えば学校と連携して自転車を持っていない子どもがいたら、中古の自転車をあげるなど、行政に繋がる仕掛けが必要である。